

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	LINO（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・理学療法士や看護師などの専門職が配置されていることにより、より専門的な視点で支援を行うことができること。	・登園から降園までの流れのなかで、それぞれの専門的スキルを生かし、より利用児の最善の利益の優先を目指して職員の配置を考えている。	・専門職の視点やスキルを、他職員にも共有し、様々な職員が高いレベルで支援できるようにしていく。
2	・送迎範囲の制限はあるが、学校がある平日でも、長期休業中であっても、開所日には送迎があること。	・平日は学校迎え、自宅送りを行っており、学校休業日は自宅への送り迎えを行い、保護者の負担軽減に努めている。	・自主登園できる児童に関しては、段階を踏んで、一人で通うことができるように支援を行っている。
3	・五領域を踏まえた様々な活動プログラムを提供していること。	・五領域を踏まえ各専門職によるそれぞれの知見に基づく活動プログラムを策定し提供している。	・「LINOサミット」の活動を通して、子どもたちが、やりたいこと、行きたいところ等を考え、自分たちで、計画して実行できる機会を増やしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）への取り組みが認知されていない。	・園長と語ろう会を実施し、保護者同士の交流や子育てに対する困り感等の共有し、その中で子育てに対する助言やアドバイス、ペアレント・トレーニング等を行う機会を設けているが認知されていない。	・園長と語ろう会の開催の目的が分かるように案内を出し、多くの方に出席して頂くように工夫していく。
2	・定期的に面談や子育てに関する助言等ができていない。	・モニタリングや担当者会議等を通して、面談や子育てに関する助言等は行っているが、定期的に実施しておらず、保護者からの要望や事業所が必要と判断した場合に実施している。	・面談期間を設け、出欠確認をとりながら、計画的に実施していく。
3	・関係機関へ訪問したりや会議を開催したりする等、連携を図る機会が少ない。 ※児発管以外の職員が連携が図りづらい	・サービス提供時間中、児発管以外の職員が訪問したり、会議等に参加する場合に（①利用者がいなくても職員を配置しなければならないこと②代わりの職員を配置する必要があること③訪問できる職員に限られるなど）、縛りがあり、関係機関との連携が図りにくい。	・関係機関との連携は必要不可欠であるが、現状の制度では、児発管以外の職員が連携を図ることが難しい。そのため、情報共有するための手段として電話でのやりとりが主である。 ※現場の意見を自治体に挙げ、自治体の柔軟な対応に期待したい。